

## 公益社団法人日本地震工学会 第49回理事会議事録

A.日時：2020年12月7日（月） 16時00分～19時47分

B.場所：ZOOMによるオンライン会議

C.出席者：（会長）中埜良昭，（副会長）山中浩明，山田哲，秋山充良

（担当理事）徳光亮一，米澤健次，松岡太一，樋口俊一，隈本邦彦，久保智弘，永野正行，清田 隆，小檜山雅之，松島信一，丸山喜久，肥田剛典

（監事）久田嘉章，三輪 滋

オブザーバ出席：清野次期会長，小松康典事務局長，戸田薫子事務局員

アンダーライン：欠席

D.議題および提出資料：

### 議題

#### 報告事項

- |                               |          |
|-------------------------------|----------|
| 1) 第48回理事会議事録（案）の確認（米澤理事）     | 資料 49-01 |
| 2) 第18回正副会長会議報告（徳光理事）         | 資料 49-02 |
| 3) 会務報告（徳光理事）                 | 資料 49-03 |
| 4) 会計報告（松岡理事）                 | 資料 49-04 |
| 5) 広報部会からの報告（隈本理事）            | 資料 49-05 |
| 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）  | 資料 49-06 |
| 7) 会誌編集委員会からの報告（永野理事）         | 資料 49-07 |
| 8) 国際委員会，地震災害対応委員会からの報告（清田理事） | 資料 49-08 |
| 9) 論文集編集委員会からの報告（小檜山理事）       | 資料 49-09 |
| 10) 事業企画委員会（企画）からの報告（丸山理事）    | 資料 49-10 |
| 11) 17WCEE 運営委員会からの報告（中埜会長）   |          |
| 12) 2020年度大会に関する報告（松島理事）      | 資料 49-12 |
| 13) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）       | 資料 49-13 |
| 14) メール審議結果の報告（1件）（徳光理事）      | 資料 49-14 |

#### 議案

- |                     |          |
|---------------------|----------|
| 第1号 入退会者（米澤理事）      | 資料 49-15 |
| 第2号 委員会委員の委嘱（徳光理事）  |          |
| 第3号 共催・後援・協賛等（米澤理事） | 資料 49-17 |

#### 懇談事項

- |  |          |
|--|----------|
| 1) 功績賞，功労賞，名誉会員の候補者について（徳光理事）                      | 資料 49-18 |
| 2) JAEE20周年記念事業（秋山副会長）                             | 資料 49-19 |
| 3) 2020年度活動報告，2021年度活動計画・予算案の作成について<br>（徳光理事・米澤理事） | 資料 49-20 |
| 4) 次期理事会の体制について（徳光理事）                              | 資料 49-21 |
| 5) 日本学術会議会員候補任命拒否への対応にについて（中埜会長）                   | 資料 49-22 |
| 6) アーカイブ化について（久保理事）                                |          |

## E.議事録：

### 議題

#### 報告事項

- 1) 第 48 回理事会議事録（案）確認（米澤理事）
  - ・ 米澤理事より資料 49-01 に基づいて第 48 回理事会議事録の確認が行われ、特に修正事項はなく承認された。
- 2) 第 18 回正副会長会議報告（徳光理事）
  - ・ 徳光理事より資料 49-02 に基づいて第 18 回正副会長会議について議事録を基に報告が行われ、特にコメントはなく承認された。
- 3) 会務報告（徳光理事）
  - ・ 徳光理事より資料 49-03 に基づいて会務報告がなされた。
  - ・ 修正追加があれば本理事会終了までに報告することにしたが、特に修正追記の申し出はなく、承認された。
- 4) 会計報告（松岡理事）
  - ・ 松岡理事より資料 49-04 に基づいて会計報告がなされた。
  - ・ 収入は少々減ったが、リモート会議が中心になったことより、様々なところで経費削減が生じ、結果として、今のところは赤字になる心配はない。
  - ・ 今後、ほとんど収入は見込めないが、支出の方は、論文事業費、会誌などが定常的に発生するため、収支差額は圧縮される。
  - ・ 収支の規模が縮小していることは望ましい状況ではないが、会計上の問題はないことが報告された。
  - ・ 資料 40-04-2 における 004-1~3 委員会については報告会など着地をどのようにするのか？各委員長に事務局より打診することになった。
- 5) 広報部会からの報告（隈本理事）
  - ・ 隈本理事より資料 49-05 に基づいて広報部会からの報告について説明があった。
  - ・ 年次大会「日本地震工学会・大会 2020」のプレスリリース、プレス対応について報告された。
  - ・ 特に問題なく遂行できたとの報告があり、特にコメントはなく承認された。
- 6) 情報コミュニケーション委員会からの報告（久保理事）
  - ・ 久保理事より資料 49-06 に基づいて情報コミュニケーション委員会からの報告について説明がなされた。特に問題なく承認された。
  - ・ 地震工学シンポジウムに関する著作権の扱いはどうなっているのか？との質問に対して、今のところ具体的な方法は考えていないが、公開にあたっては理事会で審議する必要があるとの回答があった。
- 7) 会誌編集委員会からの報告（永野理事）
  - ・ 永野理事より資料 49-07 に基づいて会誌編集委員会からの報告がなされた。
  - ・ 井田先生の「人工知能による地震予知」とあるが、査読があるのかとの質問があった。⇒内部的には特にチェックはしていないとの回答があった。⇒地震予知となると、微妙な問題があるので注意する必要がある、学会誌を特定の PR に使われるのは良くないので、注視していただきたいとの指摘があった。⇒ 今後、注視することになった。
- 8) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（清田理事）
  - ・ 清田理事より資料 49-08 に基づいて国際委員会、地震災害対応委員会からの報告について説明がなされた。

- 地震情報は、ウェブページのニュースのところにも掲載された旨がわかるようにした方が良い。  
⇒今後、そのように修正することになった。
- 被害調査に関わる旅費を工面するための積立金(地震災害調査積立金)があるので、理事の方々には周知いただきたい旨の依頼があった。
- 旅費の支弁に関しては、学会会員で、かつ職を持っている方(学生はNG)が対象である。
- 積立金は毎年積み立てているのかとの質問に対して、現在は毎年積み立ててなく、規則に従って、減れば、理事会の判断で積み立てをすることになっている、との回答があった。

#### 9) 論文集編集委員会からの報告(小檜山理事)

- 小檜山理事より資料49-09に基づいて論文集編集委員会からの報告がなされた。
- 英文論文には日本語論文を英文にした英文化論文とオリジナルで投稿された論文の2種類がある(現在、いずれも掲載料無料)。審査や編集の負担が大きいため、オリジナルで投稿された英文論文に対して掲載料を徴収すべきか否か論文集編集委員会で議論しているところである。
- 執筆要領の改訂は来年5月くらいのタイミングで行う。
- **Impact Factor**を取得する議論はなされているのか?との質問に対して、特にしていないとの回答があった。また、理事会として**Impact Factor**を取るべきだとの判断があれば、編集委員会としてはそれに向けたアクションを起こすが、まずは英文論文の査読ができる会員を養成していく必要があるとの回答があった。
- **Impact Factor**を取得するには海外の他学会と手を組むなどの方法がある、との意見があった。

#### 10) 事業企画委員会(企画)からの報告(丸山理事)

- 丸山理事より資料49-10に基づいて事業企画委員会(企画)からの報告がなされた。
- オンライン講習会企画案「機械学習・深層学習のプログラミング講習と地震工学での事例紹介」については、予算案を含め、承認が得られた。
- テーマによっては、参加者が増える可能性がある一方で、オンラインの収容人数には配慮が必要であるとの意見に対して、現状のZoomの契約よりも溢れるようであれば、別途、短期的に契約を増やすなど検討する、との回答があった。
- このオンライン講習会に関しては、地震学会に後援または協賛の形で持ちかけることになった。窓口は久田監事で進めることになった。

#### 11) 17WCEE 運営委員会からの報告(中埜会長)

- 中埜会長より17WCEE 運営委員会からの報告について口頭で説明がなされた。
- すでに集まった論文は9月に2020年度版Proceedingsとして発刊した。その後、新規の論文募集を開始した。追加で論文を募集し2021年度版のProceedingsを発刊予定である。
- 口頭発表および基調講演は、現地発表とオンラインのハイブリッドで実施予定であるがポスターセッションに関してはオンラインでの開催を基本に検討を進めている。時差の課題があるので、オンデマンドなどの活用も考えている。12月中には登録者にアナウンスする予定である。
- WCEEの中で津波Prediction Blindコンテストを実施している。全部で14チームの参加があった。12月18日に結果をウェブ上で公開し、WCEEで受賞者には発表していただくよう準備を進めている。
- ハイブリッドにした場合は、現地参加の方はどの程度の人数になるのか?との質問に対して、来年になった段階でアンケートを取る予定である旨の回答があった。

#### 12) 2020年度大会に関する報告(松島理事)

- 松島理事より資料49-12に基づいて2020年度大会に関する報告がなされた。
- 初めてのオンライン開催であったが、大きな問題はなく滞りなく大会を遂行できたことが報告

された。また、主な収支についても特に問題ないが、詳細な収支については後程報告がある旨が述べられた。

- ・ アンケート結果については次回理事会で報告することになった。

#### 13) 将来構想委員会からの報告（山中副会長）

- ・ 山中副会長より資料 49-13 に基づいて、11/18 に開催された第 2 回将来像検討 WG について報告がなされた。
- ・ 本 WG ではメンバーで分担し、学会の現状を調べた結果を基に議論した。
- ・ 次回 WG では大会 2020 のアンケート結果について議論する。
- ・ 次回は 12/15 の午前を予定している。興味のある理事の方は是非とも参加いただきたい旨の依頼があった。
- ・ 長期的に見て会員が減る現実もあり、会員を増やすのにも限界があり、一つの学会だけでなく他学会との横のつながりを考えることも視野に入れた方が良いとの意見があった。

#### 14) メール審議結果の報告（1 件）（徳光理事）

- ・ 徳光理事より資料 49-14 に基づいて、メール審議結果（年次大会のプログラムの件）について報告がなされた。
- ・ 特に異議がなく承認された。

## 議案

### 第 1 号 入退会者（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 49-15 に基づいて入退会者の報告がなされた。特に異議なく承認された。
- ・ 資料 49-15-3 に示す法人会員勧誘リスト中の企業にお知り合いの方がいれば、紹介いただいた方にレターを郵送するため、名前と連絡先を教えてくださいとの依頼があった。
- ・ 官庁関係も法人会員になるのか？との質問に対して、今までの実績では法人会員になる旨の回答があった。
- ・ 勧誘のレターに法人会員になることのメリットを書いた方が良いとの意見があり、今後、メリットを明記することで対応することになった。

### 第 2 号 委員会委員の委嘱（徳光理事）

- ・ 今回新たな委員の追加はないことの報告がなされた。

### 第 3 号 共催・後援・協賛等（米澤理事）

- ・ 米澤理事より資料 49-17 に基づき協賛 1 件の審議について依頼があり、異議なく承認された。

## 懇談事項

### 1) 功績賞，功労賞，名誉会員の候補者について（徳光理事）

- ・ 徳光理事より資料 49-18 に基づいて、功績賞，功労賞，名誉会員の候補者の選定方法について説明がなされた。
- ・ 各賞については理事会で最終的に決定するが、名誉会員に関しては、理事会で候補者を選定し、社員総会にて決定することになる。
- ・ 名誉会員は毎回 3 名から 5 名を選んでいる。
- ・ 功績賞，功労賞，名誉会員を含め、今月中に徳光理事より推薦依頼のメールをするので、1 月末までに該当者をメールにて連絡いただきたい旨の依頼があった。
- ・ 名誉会員に関しては、会員期間等でスクリーニングした資料があった方が良いとの意見があり、その旨対応することになった。

- ・ 将来的には、名誉会員などは、年齢だけでなく理事・監事経験の有無や会員期間などである程度機械的に絞られるルールがあると良いとの意見があった。（現状の内規は、名誉会員は年齢（65歳以上）の条件しか定められていない。）

## 2) JAEE20周年記念事業（秋山副会長）

- ・ 秋山副会長より資料49-19に基づいてJAEE20周年記念事業について説明がなされ、丸山理事により資料49-19-1に基づき詳細な計画について説明がなされ、開催形式、懇親会の規模、特別講演者への依頼について意見交換した。また、式典の案内方法についても意見交換した。
- ・ 開催形式に関しては、完全対面はかなり可能性が低いいため、ハイブリッドとするか、完全オンラインとするかは今後の様子を見て決めることになった。当面はハイブリッドに軸足を置いて検討を進める。
- ・ 懇親会は今想定している規模では行えないと思われるので、会場はキープしつつ、案内の文面には懇親会については記載しないことになった。
- ・ 案内は来賓と会員全員に配信することになった。文科省には来賓あいさつ込みでお願いすることになった。
- ・ 特別記念講演2に関しては翠川先生にお願いすることになった。
- ・ ハイブリッドまたは完全オンラインで行うことを想定して、早めに業者に相談しておいた方が良いとの意見があった。
- ・ 記念式典を案内する際は、ハイブリッドを前提としている、場合によっては完全オンラインとなる、そして、記念式典1か月前のコロナの状況等を勘案して、対面参加が可能な人数を決めた後に対面参加者の募集を行う（来賓を除いて、記念式典の案内を出す際は出欠の確認をしない）、ことにした。
- ・ 社員総会とどのように連携するかを総務理事と検討することになった。
- ・ パネルディスカッションに関しては、資料の通りで決まりと考えて良いか？との質問に対して、時間配分については変更する可能性があるが内容は決まりである。
- ・ 翠川先生への依頼文は、中埜会長名で事務局または丸山理事からメールにて配信することになった。

## 3) 2020年度活動報告、2021年度活動計画・予算案の作成について（徳光理事、米澤理事）

- ・ 徳光理事より資料49-20に基づき、2020年度活動報告、2021年度活動計画・予算原案の作成について説明がなされた。
- ・ 12月中に関連種別を各委員長・部会（関連理事）宛てに配信するので、1月末までに必要事項を記入して頂くよう依頼があった。取りまとめは総務・会計で行うことの報告があった。
- ・ WCEE 関連に関しては、中埜会長が対応することになった。

## 4) 次期理事会の体制について（徳光理事）

- ・ 徳光理事より資料49-21に基づき、次期理事会の体制について説明があった。
- ・ 副会長2名、総務理事1名は次期会長が選任し、その他の理事に関しては、退任する理事が選任する。
- ・ 民間からの選任も視野に入れて、分野が偏らないようにバランスよく選任してほしい旨の依頼があった。
- ・ 監事に関しては、来年度からは五十田先生、末富様が監事になる予定である。
- ・ 事務局の体制としては、戸田様が事務局長を務め、小松様が事務局員として残ってもらうことになった。
- ・ 来年度の年次大会は、WCEE開催にともない、実施するのか否か？について質問があり、来

年度も学生に発表の場を提供するなどの観点から、実施する方向で検討することになった。

- ・ その他、次期大会実行委員長の任期について議論があった（1年 or 2年）。⇒過去の実績を踏まえると、実行委員長の任期は原則として1年で、来年度は新規に実行委員長を選任する方向で調整することになる。

5) 日本学術会議会員候補任命拒否への対応について（中埜会長）

- ・ 中埜会長より、資料49-22に基づき、日本学術会議会員候補任命拒否への対応について説明がなされた。
- ・ JAEEとしては当面静観することとし、積極的なアクションは起こさない方針とすることで了解された。

6) アーカイブ化について（久保理事）

- ・ 久保理事より、資料49-06に基づいて、地震工学シンポジウムのアーカイブ化について意見交換した。
- ・ 現在年次大会、イベント関係さらに、1962年～1973年までの地震工学シンポジウムのPDF化で当初予算(約19万円)をほぼすべて使用した。残りの日本地震工学シンポジウムのアーカイブ化について、15,684ページを実施するために348,040円が必要となることから、その支出について意見交換し、「案2：今年度に追加予算をいただき、実施」で了解された。
- ・ ルール化は並行して考えていく必要がるとの意見があった（特に著作権など）。
- ・ 当面、公開は会員のみにするようになった。

次回予定：第50回理事会 3月19日（金）16時～19時

（拡大正副会長会議 3月1日（月）16時-19時）

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和3年 12月 14日

議長 中埜 良昭

監事 久田 嘉章

監事 三輪 滋